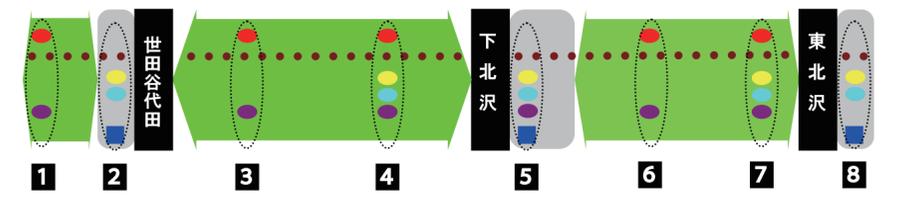


3 防災施設の基本的な考え方

線路跡地に防災・減災のための施設として連続する通路や、概ね300mごとに「ミニ防災スポット」を区で設置する等により、防災・減災の機能の充実を図ります。

- 1 延長1.7kmの線路跡地に整備する通路は、災害時に避難路や緊急車両の通行、防災活動の空間となるよう整備します。
2 「ミニ防災スポット」は駅前広場や緑地等を活用し、防災倉庫等の施設を備えたものとします。
3 スタンドパイプ等の防災器材を収納できる防災収納ベンチを駅前広場や緑地、通路に適宜配置します。
4 鉄道跡地に隣接する空地と合せて、一体的にミニ防災スポットを設置することにより、防災トイレと併設した防災井戸を設置します。

防災施設の配置図



- 1 防災倉庫 5箇所程度
2 防災収納ベンチ 消火栓等の配置を考慮し、駅前広場や緑地、通路に適宜配置
3 防災トイレ 5箇所程度
4 防災井戸 防災トイレに併設
5 かまどベンチ 6箇所程度
6 防火水槽 各駅前広場に1箇所程度
7 ミニ防災スポット 概ね300m毎

1 シンポジウムを開催しました。

本年4月12日(木)に、北沢タウンホール12階スカイサロンで小田急線上部利用シンポジウムを開催しました。同時に開催したオープンハウスと合わせて、延べ160名の方に参加していただきました。

- 〔概要〕
・基調講演 涌井 史郎(雅之)氏 (東京都市大学教授)
・パネルディスカッション 保坂 展人区長 涌井 史郎(雅之)氏(東京都市大学教授) 小林 正美氏(明治大学教授) 柴田 真希氏(NPO法人まちこぼらぼ理事長) 玉利 久江氏(北沢2丁目協和会会長) 柏 雅康氏(しもきた商店街振興組合理事長)



*小田急線上部利用シンポジウムの様子 シンポジウムについては、動画配信を行っております。詳細は区のホームページをご覧ください。

2 参加者のご意見・ご感想

- パネルディスカッションのご意見・ご感想
・鉄道事業者と連携しながら進めて欲しい
・高齢者から子どもまでコミュニティを形成できるようにして欲しい
・防災、減災の視点は大切
・補助54号、駅前広場、緊急車両の問題などの交通計画を見直して欲しい
・みどりや環境に配慮した空間にしたい
・小林先生の話(グリーンライン案)に共感した
・地域の人の意向や現状に配慮し、できるだけ早い対応が必要
・車社会から歩行者のためのまちへ
・企業、市民、行政など関係者すべてが協力しながら進めていけるとよい
・世界に発信できるような魅力ある下北沢にしていきたい
・市民が主体的にまちづくりに参加できるプロセスを
・短期的な目標だけでなく長期的なビジョンも考えていけるとよい
・建物の高層化を抑え、地形の高低差を生かして欲しい
・個々の利益だけでなく、「下北沢」のためのまちづくりを
・文化・芸術の息づくまちにして欲しい
・その他

- シンポジウムについてのご意見・ご感想
・充実したシンポジウムだった
・涌井先生の意見に共感した
・基調講演の話やシンポジウムのテーマはよくなかった
・パネリストの意見に共感した
・パネルディスカッションの時間も欲しかった
・時間が足りなかった
・会場の状況に不備があった
・ファシリテーターのまとめがよかった
・会場の意見も言えるような場になるともっとよかった
・その他



上部利用計画(区案)の追加、修正に向けた考え方(素案)について

世田谷区では、昨年2月に「小田急線上部利用計画(区案)」をまとめ公表したところですが、3月11日に発生した東日本大震災の経験から再度、地域防災などの視点から追加、修正を行うことといたしました。この間、区は「小田急線上部利用オープンハウス」や「小田急線上部利用まち歩きワークショップ」を実施するなどして、区民意見を伺うとともに計画の検討を進めてまいりました。この程、上部利用計画(区案)の追加、修正に向け、検討素材として基本的な考え方(素案)をまとめたのでお知らせします。

オープンハウスを開催します。

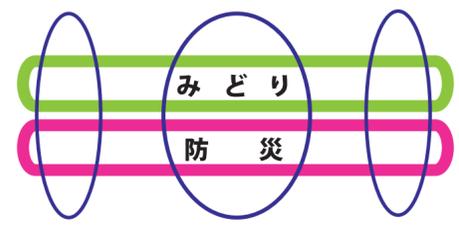
オープンハウスを開催します。当日は、防災器材(防災トイレ、かまどベンチなど)の展示も行いますので、皆様のご来場をお待ちしております。開催日、時間及び会場などは次のとおりです。

Table with 3 columns: Date, Location, and Transportation. It lists three open house events on 8/29, 8/31, and 8/24, with details on location and access.

* 実施時間は、各会場とも18:00～20:00です。内容は、各会場とも同じです。各会場に駐車場はございません。ご来場には公共交通機関をご利用ください。

1 コンセプト

上部利用計画(区案)の追加、修正に際しては、東日本大震災の経験を踏まえ、『防災、みどりの基軸づくり』をコンセプトとして、防災・減災の機能を埋め込んだ、地域のみどりの基軸になる人間優先の空間づくりを図るものとします。



2 防災、みどりの基軸づくりの考え方

防災・減災のための基盤的機能を持ち、みどりの中を、ゆっくり歩きながら、くつろぐことができる、五感で楽しむ空間の整備を目指します。

- 1 東北沢駅から梅ヶ丘駅まで、緑地・小広場、建築物と一体となったシームレスな「みどり」空間の実現を図るため、その軸となる通路を区が整備します。また、通路の連続性を生み出すために環状七号線の架橋を区が整備します。通路については、災害時には、避難路や緊急車両の通行、防災活動の空間となるよう整備します。



【事例】みどりの空間(通路) >

- 2 緑地・小広場を、通路と一体的に区が整備します。災害時にはミニ防災スポットとし防災活動の拠点として、平常時はシームレスな豊かな緑の癒し空間の拠点とします。また、計画の段階から区民参加が進めることによって緑の維持管理については、行政だけでなく区民、NPOとのパートナーシップでの取り組みを目指していきます。



【事例】マンホールトイレ(組み立て後) >

- 3 各駅の駅前広場は、連続する通路や区道と駅の結節機能として高齢者や障害者等すべての人がスムーズに利用できるものとします。また、地域活性化のためのイベント等の場として、さらに、災害時に備えての防火水槽等を備える広場を整備します。

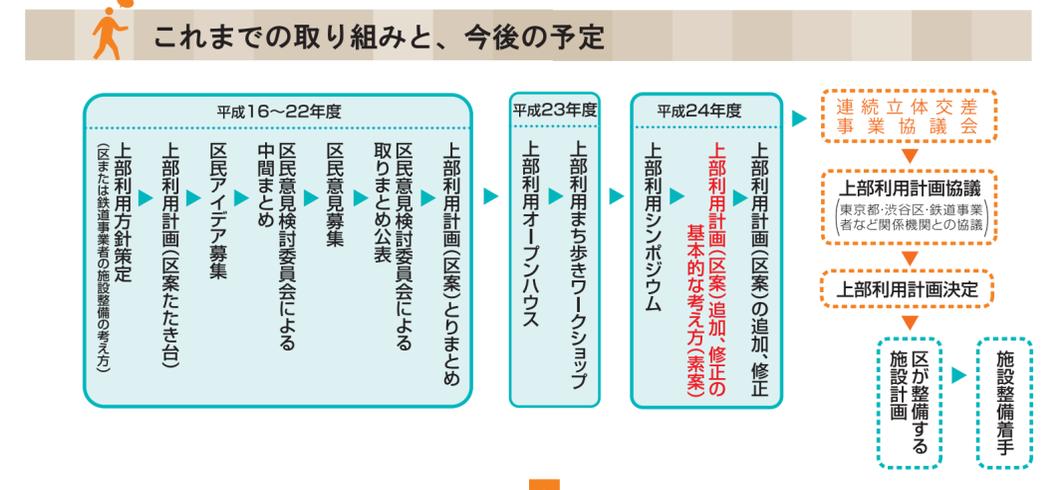


【事例】防災施設(防火水槽) >

*シームレス:施設間で継ぎ目のない整備のこと

Postage stamp area with a 1224 stamp and a yellow box containing the text 'こちらの意見募集は、終了しました。' (This opinion collection has ended).

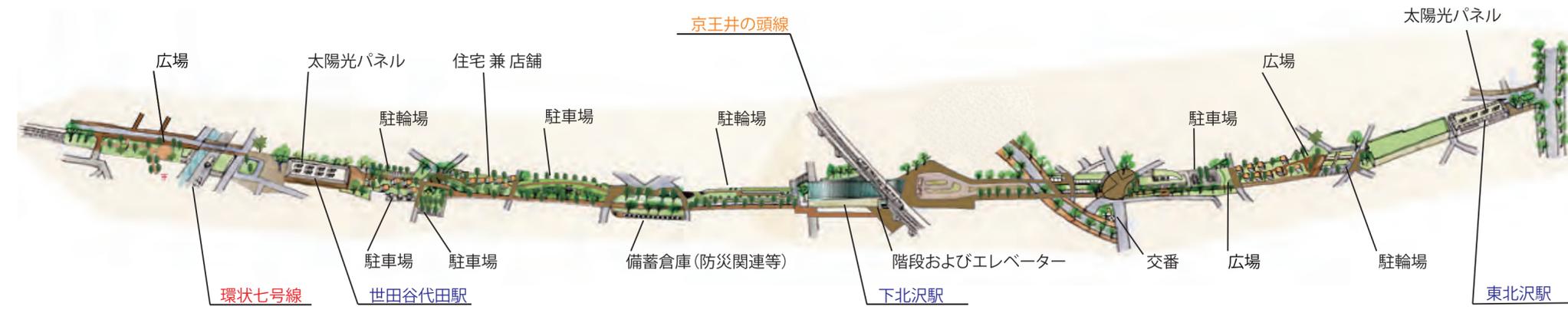
Information box for the 'Basic Idea (Draft)' survey, including contact details for the Setagaya City Planning Department and the deadline of August 31, 2024.



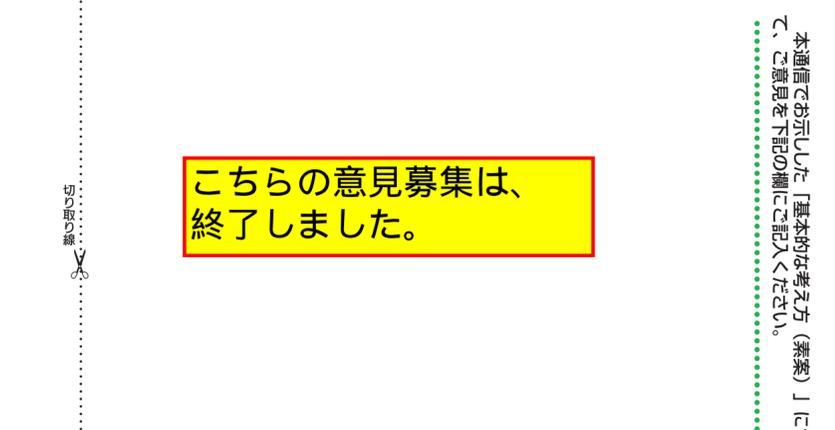


これは、上部利用計画について世田谷区が区民の皆さんからのご意見を聞いて、昨年2月の区案の追加・修正に向け、検討素材としてまとめた基本的な考え方(素案)のイメージ図です。

上部利用については、小田急電鉄株式会社及び東京都との協議の場で了解を得る必要があります。これから、その協議を始めるにあたり財政負担の検討等も必要となり、そのようなことから、このイメージ図は、これから変更される部分もあることをご理解ください。(下記の※参照)



※この図は、検討素材としてまとめた基本的な考え方(素案)のイメージを表したものです。
 ※上部利用において、建築物などは都市計画法の用途制限などの関係法令等に適合することが必要であり、また、土地所有者である鉄道事業者や連続立体交差事業の事業者である東京都と、施設配置や土地利用権などにかかる協議が必要です。



切り取り線